

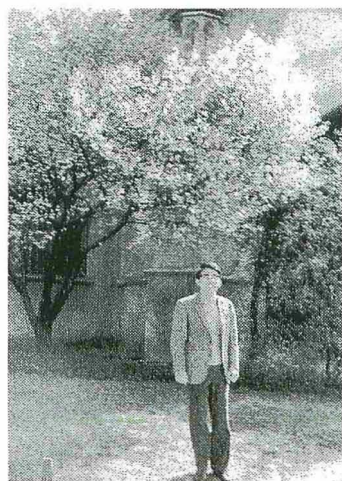


# デジタル通信革命の舞台裏

## 内海善雄 前ITU事務総局長

—2—

政治学部  
は、全員が博  
士コースにな  
っており、卒  
業生は、他の  
大学の教授  
や、研究者、



シカゴ大学留学時の筆者

そこで、自分が新しいこ  
とを発見する喜びというも  
のを味わった。その後の私  
の人生は、新しいことにチ  
ヤレンジする人生であった  
といえるが、この留学で知  
った喜びが影響している  
と思う。

日本は効率的で公平

郵政省では、時々本省で  
研修を受けながら、中野郵  
便局で、郵便の配達から貯  
金の窓口事務まで、1年間  
の現場実習をした。  
本省では、先輩の三浦一  
郎文書課長補佐から、生ま  
れて初めて「通信経済学」  
という言葉を知った。当時  
は「交通経済学」という言  
葉はあったが、通信政策を  
研究する学者もおらず、著  
書も見ることがなかった。  
2年目には郵務局輸送課に  
配属になった。

ある職場だった。いわば、  
郵政省の保守本流的なこ  
ろである。  
学級肌の私には、なかなか  
か波長が合いにくい職場で  
あった。夕方になると酒盛  
りが始まるので、新人の私  
の仕事は、さかんに買つて  
きた天ぷらの  
ために天つゆ  
を作ることで  
あった。

シャーナリストなどになっ  
ていた。学生達は、一日も  
早くPhDを得るために努  
力して、教室と図書館  
と自宅以外どこへも行か  
ず、楽しい学園生活とはま  
るで縁のないものであっ  
た。

この面倒を見た子供たち  
は立派に成長し、兄は、ア  
カマイ社の社長、弟はハー  
バードの教授になってい  
る。セイガン家での暮らし  
にまどめた。これは、著名  
な政治学者セオドル・ロー  
イ教授に褒められ、出版す  
ることを勧められた。

# 新しいことを発見する喜び

英会話に大きな興味  
輸送課は、郵便の運送を  
取り仕切る部門である。課  
員たちは、自らを「雲助」  
と称して、酒をガブ飲み  
し、羽目をはずす豪傑ぶり  
を自慢する独特の雰囲気か  
ら、英会話に興味を持  
った。

## ガバメント・ボーイの 未来を拓いたシカゴ大

し、エンリコ  
・フェルミが  
初めて原子の  
火をともした  
初めは原子的  
な要求に手  
を焼いた  
とき、下宿先  
の実業家セイ  
ガン氏からこ  
う教えられ  
た。石原慎太  
郎氏が「N  
O(ノー)」と  
言える日本  
で、論文を書  
くために図  
書館にこも  
って資料を参  
考した。この  
面倒を見た  
子供たちは  
立派に成長  
した。兄は  
アカマイ社  
の社長、弟  
はハーバ  
ードの教授  
になってい  
る。セイガ  
ン家での暮  
らしにまど  
めた。これは  
著名な政治  
学者セオド  
ル・ローイ  
教授に褒め  
られ、出版  
することを  
勧められた。

教授が他のクラスで「日  
本のガバメント・ボーイの  
分析手法は、素晴らしい」  
と褒めていたという話を米  
国の友人からも聞いた。言  
葉のハンディはあっても、  
米国の文化に馴染むことが  
ないと思つたが、その自信が、  
後に国際関係の仕事に就  
いた際、大いに助けにな  
った。

そんな時、夜、四谷の日  
米会話学院へ行かせてもら  
えるようになり、天つゆ作  
りや酒盛りから解放され  
た。高校でも大学でもE  
S(英会話クラブ)に属し  
カデミック一筋の大学であ  
る。無料で提供するという話  
がある。

無料で提供するという話  
がある。

(つづく)

2011年(平成23年)11月28日(月曜日)

# デジタル通信革命の舞台裏

## 内海善雄 前I-T-U事務総局長

3

シカゴ大学の授業は5月とができた。

末に全部終了したので、ヨーロッパを旅行して帰国することにした。1カ月間全ヨーロッパのファースト・クラスの列車に乗れるユーロパスという格安の切符を購入、夜行列車がホテル代わり。朝新しい都市に到着し、一日中その町を見学した夜、別の国行きの列車に乗る。こんな貧乏旅行でヨーロッパをくまなく回る

叱られた。

「数カ月も行方不明とは何事か、全ての人事異動はめが人事異動の季節で職員はもう終わつたぞ」。1997年7月16日、海外出張抜けて待っている。私は、命令になつていた留学期間をどおりの日に出張から帰っ

て、常に要員が足りない困難局であった。

アルバイト職員も企業に採られて採用できず、苦しい局経営であったが、皆、助け合つて仕事をしていた。呼んでいたが、しかし、その

# 政策の希望の星「情報通信業」

話建設だけがすべの時代は終わった。そんな中で、



た。ところが、春闘で全通組合から違法ストライキ拠点局に指定され、ストを拒否する者と組合の指令に従う者との激しい相克が起きた。

てきたのだが、その命令は2年前に出ている担当者も知らない。携帯電話もない時代だから、連絡もできなかったらしい。要員不足の困難局

### 要員不足の困難局

若手官僚のバイブルとなった「通信行政の展望」

翌年、同期の者に2年遅れで、岡山県の水島郵便局長に任命され、就職してか

ら初めて責任あるポストについた。同局は、水島コンピナートの建設に伴って業務が急拡大し

73年に電気通信回線の一部自由化が行われ、コンピュータで科学計算や事務計算を行っていた情報処理業者が、オンラインで顧客に計算サービスを行うことができた。

この新しいサービスを、郵政省では「情報通信業」と名づけ、郵政省が所管する新しい民間事業として育成したいと考えていた。いわば新しい通信政策の希望の星であったのである。

しかし、郵政省には、財投や税制、補助金などの政策手段が何もなく、また、それらに関するノウハウもなかった。一方、通産省では、情報産業がこれからの産業であると、各種の育成策を実施していた。

調べてみると、そのほとんどは、10年前の60年代の初頭、後に大分県知事となった平松守彦電子政策課長時代に創設されていた。平松氏には、畏敬の念を持たずにはおれなかった。

一方、米国では、連邦通信委員会(FCC)が存在し、政策の発案や関係者の

スト後、職員たちはお互いに疑心暗鬼となり、また、管理者とは口を利かないなど、108人の職員と人間ドラマの裏表を見る経験をした。たった1年間であったが、振り返ると何十年分もの人生経験であった。

翌74年7月、電気通信監理官室のデータ通信担当副参事官の辞令を頂いて、本省に帰ってきた。

郵政省には、電気公社の監督を行う2人の電気通信監理官という局長クラスのポストがあり、少数のスタッフが補佐していた。その組織を電気通信監理官室と呼んでいたが、しかし、その

富田徹朗氏や金光洋三氏ら、前記監理官の下若手官僚達は、「通信行政の展望」と名づけた小冊子を継ぎめ上げ、新しい通信政策を夢見ていた。また、電気通信監理官室は、毎年、局への昇格の予算要求も行っていたが、どこからも相手にされなかった。

手段、ノウハウなし 監理官室着任の1年前、

(つづく)

# デジタル通信革命の舞台裏

## 内海善雄 前I-T-U事務総局長

4

漁船が大挙し心にした協力体制が崩壊して尖閣列島へてしまった。来たという新聞報道があった。一方、日本においてはこの危機を契機として、規制官庁と事業者とを峻別し、あまり責任通信政策局を創立しなければならぬという若手官僚の訴えが、省内でやつの結果、人事局をス

何か新しいことをやりたに思っても、何もできない要求不満の2年間の監視官室勤務。ところが外務省に出向して、在ジュネーブ国際機関日本政府代表部に勤務することになった。

ジュネーブ勤務の2年目、日本では大変なことが起きると理解されることになった。KDDから多数の政治家へのプレゼントが発覚した。いわゆる「通信政策局」を設立するという省内合意が成立した。

80年、通信政策局が創設され、郵政省は郵政事業重

## 通信行政重視へと舵を切る

### 現業官庁から政策官庁へ脱皮

国の地域として省の家宅捜査や、幹部の逮捕にまで発展して、郵政省は設立以来の大危機に見舞われたのである。設立された

は、電気通信の標準化や周波数の調整をしている最古の国際機関で、いわば郵政省の親玉に当たる。

ジュネーブでは、電電公長を仲介しての中国との交渉中、カナダ出身の議長



都内・狸穴にある旧郵政省の建物＝中央官庁で唯一霞ヶ関を所在地にしなかった。通信政策のことは忘れ、郵便事業の経営に没頭した。

書記官の仕事は、日本からの出張者のサポートやI-T-Uの会議に出席することであったが、仕事は最低限

社とKDD(国際電信電交渉は、この問題の難しさの一端を知ることができDや電電公社の事務所にもお願いしていたが、そのよる象徴的な人事であった。新局は「電気通信政策」のジュネーブ勤務を終え、中国地方を管轄する広島郵

郵便物の処理に奔走

そのころ、私は、3年間終段階になっていた通信政策局の政策企画官という新設の課長クラスのポストに任命された。(つづく)

# デジタル通信革命の舞台裏

## 内海善雄 前I-T-U事務総局長

5

事業として規制する「ならば、この新しい事業は郵政省の所管になり、「情報処理サービスと

「電気通信政策懇談会（電政懇）」では、電電公社も産業界からの要望の強かったデータ通信（注）の自由化に関しては、異論がなかった。「電政懇」は、

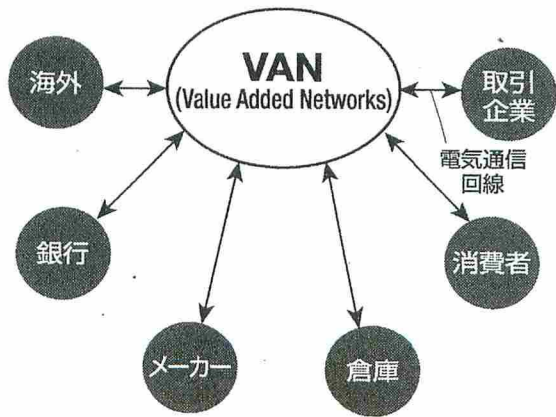
### 革命的な発想と行動

局を挙げて、提言の作成に取り組んだが、なかでも活躍したのは、江川晃正データ通信課長であった。持ち前の行動力で芦原懇談会座長（関電会長）や、秋山龍部会長の信頼を得、電電

後にネットへと発展

この争いの先頭に立った通産省の担当課長は、関取、熊野英昭、牧野力、広

VANのイメージ図



書として選ばれ、ベストセラーとなった。経団連などでも報告会が開かれたが、実に時代の先取りをしたものだった。

最終的には郵政案に

両省は、あらゆるところで根回し合戦を行ったが、VANに対する世の中の理解が進むにつれて、郵政省の考えをサポートする者が増え、最終的には、自民党の政調会の裁定という形で郵政案に決着した。

# ネットVANの役割を検討

## 通産省VS郵政省戦争

電話回線を瀬勝貞の各氏と、どの方も活用して、その後には、官や局長に就任されるに活躍された人ばかりだ。

### 世のサポートが必要

大助教授の下で、産業界の若手の方々の熱心な討議の結果、「ネットワーク化社

「電気通信分野に市場原理の導入を図ること」という公社も反対しにくい曖昧な言葉を使って、激突を避けた。

### 当時の電話事業の自由化

や電電公社の民営化などは、ほとんどの人の意識に

また、「電電公社の組織形態の見直しを検討する」

江川氏の革命的な発想と行動力のため

この報告書は、全国優良やクラウドサービスを

# デジタル通信革命の舞台裏

## 内海善雄 前NTT事務総局長



NTTによる三鷹市でのINS実験開始のセレモニー

電気通信の自由化が話題になると、さまざまなニュー・メディアが議論された。VANサービスから、1機数百億円もする衛星を打ち上げて衛星通信サービスを打ち上げようとするもので、たくさんの夢物語があった。私は、いろいろなグループに呼ばれて意見を聞かれた。

た。電気通信の世界に食を食む者は、この考えに疑問を挟める雰囲気があるでなかった。VANサービスから、遠近格差は1対60に

一方、既存の電気通信業界の外では、電気通信の自由化でなにか大きなビジネスチャンスがあるに違いない。NTTは、北原安定副総裁のもと、通信ネットワークは、全てデジタル網に統合されると考えていた。三鷹でINS(デジタル統合網)の実験を開始(1984年)し、光ファイバを使ったINSの建設に突き進んだので、機器メーカーも電気通信関連学会も、専門メディアも、世の中はINS一辺倒であった。

「第二電電」がマイクを回線を使うことになった。CATVもマイクを回線を使うことになった。V回線を電話のために使うこともできる。世の中が全くを建設するときに聞いたとき

# 競争は長距離電話で起こる

## 今どきながる「イー・メディア」

は正直なところ驚いた。しかも、郵政省には、電波の割当計画がすでにあるというわけではない。光ファイバが全てである

これらの新規参入組は、紆余曲折の後、統合され現在のKDDIになっている。そして、今の主たる事業は携帯電話である。携帯電話がこれほど大きなビジネスになることは、当時誰も考えていなかった。

「競争は、長距離電話で起こる」という話であった。そのうち稲盛和夫氏や干本倅生氏、小野寺正氏らが第一電電構想を打ち出し、

土地のない新規参入者には、もっとも実現性の高いものだったのだ。皆、長距離通信で競争

「第二電電」がマイクを回線を使うことになった。CATVもマイクを回線を使うことになった。V回線を電話のために使うこともできる。世の中が全くを建設するときに聞いたとき

係者には、日本には3社の競争が成り立つような衛星通信市場はないと何度も申し上げた。それは、技術開発目的で打ち上げられた通信衛星(CCS)のサービス認可の過程で、コストを考えなくてもよいこの衛星ですら、非常用のバックアップ回線として使う以外には需要がないことを聞いていたからである。

「競争は、長距離電話で起こる」という話であった。そのうち稲盛和夫氏や干本倅生氏、小野寺正氏らが第一電電構想を打ち出し、

引や、結束のために必要な可欠だとの観点からであったと思う。当時、アマゾンや楽天のようなネット・シヨップのプラットフォームが出現すると考えた研究会は皆無であった。CATVについても、多くの個人実業家から相談を受けた。当時、CATVが米国で隆盛だった、地域を限定すれば比較的小規模な投資でサービスが可能であることなどから、大きなビジネスチャンスだと考える人が多かった。

「競争は、長距離電話で起こる」という話であった。そのうち稲盛和夫氏や干本倅生氏、小野寺正氏らが第一電電構想を打ち出し、

行動を起こせば成果いろいろな悪感で、いろいろな研究会や事業化の試みがなされたが、そのほとんどが、当初のつもりどおりにはなっていない。しかし、何らかの形で夢を現実させている。

「競争は、長距離電話で起こる」という話であった。そのうち稲盛和夫氏や干本倅生氏、小野寺正氏らが第一電電構想を打ち出し、

人間が将来を予想する力には、本当に限られているのであるが、行動を起こせば何らかの成果はあるものだ。(つづく)

# デジタル通信革命の舞台裏

## 内海善雄 前NTT事務総局長

2012年度総務省の情

報通信関連の予算は、およそ1600億円である。ほんの二十数年前には、実質ゼロであったのだから、まるで夢のような規模だ。

電信電話は、国営独占事業であったから、NTTの予算が、すなわち事業の規模であり、国民が享受するサービスのレベルであった。独立採算のこの事業は、加入者債券や財投資金からの借入金など、豊富な資金が存在した。また、この潤沢な資金のもとで、NTTの電気通信研究所が技術研究活動を行っていた。

従って、国が電話事業の振興や基礎技術開発を行わなければならないという必要はなかったのだ。その結果、郵政省はNTTを監督するこの業務のみで、郵政予算は職員の人件費のみであった。

1974年、同参事官ら6年後、通

は、アルミ海底ケーブルを開発するための補助金を算要求した。当時、銅の価格が暴騰していたので、安格が暴騰していたので、安いアルミ製の海底ケーブルが製造されると通信産業の振興になると考えたのである。この予算要求は、郵政省が行った実質的に初めて

の補助金要求であった(当時有線放送電話へたつた500万円の補助金が郵政省に存在した)。

### 官公庁の表現 産業振興政策

# ニューメディア100億円

の低利融資制度を創りたいといわゆる財投資要求を提出した。しかし、誰からも相手にされなかった。

私も1982年、データ通信課長に就任して同様の要求を出した。しかし、その時、どこから聞きつけたのか、通信族の重鎮であった新谷寅三郎参議院議員から「民間に電電公社に対抗



「ニューメディア 100億円」の投資先の一つがCATV。1984年には第1回のCATV展「フェスティバルCATV84」が開催された

ためのリースの郵政省ではなく、産業制度の創設支援、総計100億円の開発の要求を行った。この結果、両省から頼まれた先生方は「とにかくニューメディア100億円を頼む」と、大蔵省に追

った。「ニューメディア100億円」が、永田町の両省の財投を認める

困った大蔵省は、両省に調整を促したが、調整できなかつた。結局、未調整のまま大蔵省は両省に財投を認めたのである。

郵便局で財投資金を集めるが、それまでは一銭も使う立場になかった郵政省に、はじめて成立した財投であった。これは、郵政省が規制官庁から、振興も行う経済官庁になる第一歩であったと思う。その後、郵政省

には、テレコム税制や森本哲夫電気通信局長が頑張り電波料を財源とする技術開発予算なども成立し、現在の情報通信振興施策予算となっている。(つづく)

# デジタル通信革命の舞台裏

## 内海善雄 前IT-U事務総局長

中学生のとき、地元の前と、世界の大都市との間を大容量の通信回線で結び、ダイヤルの掛け方から、料金もその大都市にしているのと同じにする。

あたかも通信に関する限定的なサービスを提供するはく作業を始め、だが、実際に案をまとめたところ、現実的

中学生のとき、地元の前と、世界の大都市との間を大容量の通信回線で結び、ダイヤルの掛け方から、料金もその大都市にしているのと同じにする。

あたかも通信に関する限定的なサービスを提供するはく作業を始め、だが、実際に案をまとめたところ、現実的

中学生のとき、地元の前と、世界の大都市との間を大容量の通信回線で結び、ダイヤルの掛け方から、料金もその大都市にしているのと同じにする。

あたかも通信に関する限定的なサービスを提供するはく作業を始め、だが、実際に案をまとめたところ、現実的

中学生のとき、地元の前と、世界の大都市との間を大容量の通信回線で結び、ダイヤルの掛け方から、料金もその大都市にしているのと同じにする。

あたかも通信に関する限定的なサービスを提供するはく作業を始め、だが、実際に案をまとめたところ、現実的

### テレポートピア構想

中学生のとき、地元の前と、世界の大都市との間を大容量の通信回線で結び、ダイヤルの掛け方から、料金もその大都市にしているのと同じにする。

あたかも通信に関する限定的なサービスを提供するはく作業を始め、だが、実際に案をまとめたところ、現実的

中学生のとき、地元の前と、世界の大都市との間を大容量の通信回線で結び、ダイヤルの掛け方から、料金もその大都市にしているのと同じにする。

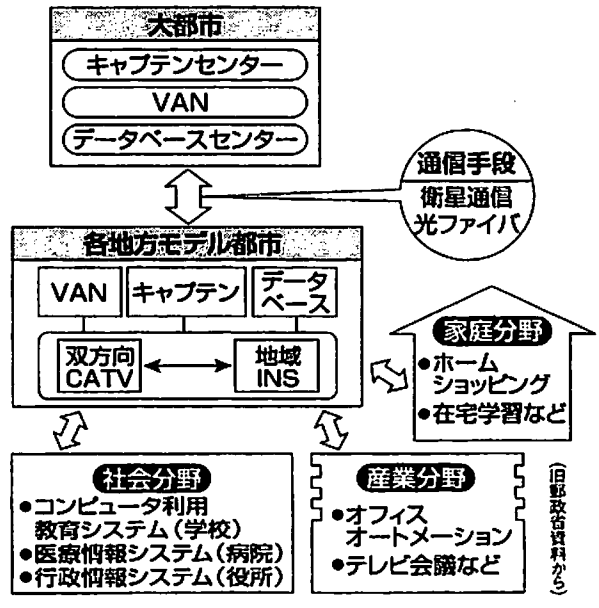
あたかも通信に関する限定的なサービスを提供するはく作業を始め、だが、実際に案をまとめたところ、現実的

中学生のとき、地元の前と、世界の大都市との間を大容量の通信回線で結び、ダイヤルの掛け方から、料金もその大都市にしているのと同じにする。

あたかも通信に関する限定的なサービスを提供するはく作業を始め、だが、実際に案をまとめたところ、現実的

## 地域の情報化機運、一気に高まる

### テレポートピア構想のイメージ



得なかった。結局、新しいサービスや施策をほかの地域に先駆けて集中的に実施し、「情報化の先導的役割を担うモデル都市づくりを進める」という案に集約していった。

半年後の8月、各官庁の概算要求が出されると、な

「都市型」と「地方型」

早速、課内でアイデアを募った。都市型と地方型の二つの案が出てきた。都市型は、国内の特定の地域

得なかった。結局、新しいサービスや施策をほかの地域に先駆けて集中的に実施し、「情報化の先導的役割を担うモデル都市づくりを進める」という案に集約していった。

半年後の8月、各官庁の概算要求が出されると、な

「都市型」と「地方型」

早速、課内でアイデアを募った。都市型と地方型の二つの案が出てきた。都市型は、国内の特定の地域

得なかった。結局、新しいサービスや施策をほかの地域に先駆けて集中的に実施し、「情報化の先導的役割を担うモデル都市づくりを進める」という案に集約していった。

半年後の8月、各官庁の概算要求が出されると、な

「都市型」と「地方型」

早速、課内でアイデアを募った。都市型と地方型の二つの案が出てきた。都市型は、国内の特定の地域

得なかった。結局、新しいサービスや施策をほかの地域に先駆けて集中的に実施し、「情報化の先導的役割を担うモデル都市づくりを進める」という案に集約していった。

半年後の8月、各官庁の概算要求が出されると、な

「都市型」と「地方型」

早速、課内でアイデアを募った。都市型と地方型の二つの案が出てきた。都市型は、国内の特定の地域

得なかった。結局、新しいサービスや施策をほかの地域に先駆けて集中的に実施し、「情報化の先導的役割を担うモデル都市づくりを進める」という案に集約していった。

半年後の8月、各官庁の概算要求が出されると、な

「都市型」と「地方型」

早速、課内でアイデアを募った。都市型と地方型の二つの案が出てきた。都市型は、国内の特定の地域

得なかった。結局、新しいサービスや施策をほかの地域に先駆けて集中的に実施し、「情報化の先導的役割を担うモデル都市づくりを進める」という案に集約していった。

半年後の8月、各官庁の概算要求が出されると、な

「都市型」と「地方型」

早速、課内でアイデアを募った。都市型と地方型の二つの案が出てきた。都市型は、国内の特定の地域

得なかった。結局、新しいサービスや施策をほかの地域に先駆けて集中的に実施し、「情報化の先導的役割を担うモデル都市づくりを進める」という案に集約していった。

半年後の8月、各官庁の概算要求が出されると、な

「都市型」と「地方型」

早速、課内でアイデアを募った。都市型と地方型の二つの案が出てきた。都市型は、国内の特定の地域

得なかった。結局、新しいサービスや施策をほかの地域に先駆けて集中的に実施し、「情報化の先導的役割を担うモデル都市づくりを進める」という案に集約していった。

半年後の8月、各官庁の概算要求が出されると、な

「都市型」と「地方型」

早速、課内でアイデアを募った。都市型と地方型の二つの案が出てきた。都市型は、国内の特定の地域

得なかった。結局、新しいサービスや施策をほかの地域に先駆けて集中的に実施し、「情報化の先導的役割を担うモデル都市づくりを進める」という案に集約していった。

半年後の8月、各官庁の概算要求が出されると、な

「都市型」と「地方型」

早速、課内でアイデアを募った。都市型と地方型の二つの案が出てきた。都市型は、国内の特定の地域



# デジタル通信革命の舞台裏

## 内海善雄前NTT事務総局長

国鉄、電電公社、専売公社と全く同じである。国鉄の3公社と、郵政、林の棚上げされた累積債務、印刷、アルコール専売などの5現業は、かつて国営事業であった。御三家といわれた国鉄、電電、郵政はいずれも民営化され、3公社5現業という言葉も死語になった。しかし、同じ民営化だが、国鉄は大変異なるものであった。

電話建設が終了した電電公社には、データ通信や、携帯電話などの新しい事業分野が期待された。電電公社は、データ通信や、携帯電話などの新しい事業分野が期待された。電電公社は、データ通信や、携帯電話などの新しい事業分野が期待された。

国鉄は経営立て直し  
国鉄の民営化は、累積し続ける債務に悩まされ、これ以上赤字は拡大できないという観点から、累積債務を清算事業団に棚上げして、身軽にして経営の立て直しを図ることが目的であった。JALの倒産・再

### 御三家民営化の現場

「電電天逆説」の職員たち  
自由化のための事業法の立案に取り組んでいた。巨大なNTTが独占する市場に、分割など、どのように電電民営化が議論されたか。1983年には、公

「電電天逆説」の職員たち  
自由化のための事業法の立案に取り組んでいた。巨大なNTTが独占する市場に、分割など、どのように電電民営化が議論されたか。1983年には、公

「電電天逆説」の職員たち  
自由化のための事業法の立案に取り組んでいた。巨大なNTTが独占する市場に、分割など、どのように電電民営化が議論されたか。1983年には、公



1985年3月28日に行われたNTTの創立総会  
—左から2番目がNTT初代社長の真藤恒氏

消されてしまった。  
一方、郵政の民営化は、国鉄とはまったく逆である。郵政事業は、きわめて健全であったのだ。民間に続く行革審なども、郵政事業が話題になったが、民営化の必要性は認識されなかった。私は、郵政省の組織問題の担当である文書課長や、郵便事業の責任者である郵務局長として、委員の先生方に何度も事業の意義を説明する機会があった。

## スムーズだった電電公社民営化

「電電天逆説」の職員たち  
自由化のための事業法の立案に取り組んでいた。巨大なNTTが独占する市場に、分割など、どのように電電民営化が議論されたか。1983年には、公

「電電天逆説」の職員たち  
自由化のための事業法の立案に取り組んでいた。巨大なNTTが独占する市場に、分割など、どのように電電民営化が議論されたか。1983年には、公

「電電天逆説」の職員たち  
自由化のための事業法の立案に取り組んでいた。巨大なNTTが独占する市場に、分割など、どのように電電民営化が議論されたか。1983年には、公

「電電天逆説」の職員たち  
自由化のための事業法の立案に取り組んでいた。巨大なNTTが独占する市場に、分割など、どのように電電民営化が議論されたか。1983年には、公

2011年(平成23年)12月7日(水曜日)

# デジタル通信革命の舞台裏

## 内海善雄 前I-T-U事務総局長

—10—



1977年米アトランタでC&Cの考えをスピーチするNECの小林宏治会長(当時)

対だけはしない。で、くださる。と懇願したが、「不可能なことが分かっていても、の国が行うのは駄目だ」と審議会でも発言され往生した。

ちよとそこのとき、カン又で開催され

たある国際会議に奥田敬和郵政大臣が出席することになった。

大臣に、「世界に向かっ

て自動翻訳電話の共同開発

を呼びかけてはどうかか」

と提案したところ、「そんなものが本当にできるのか？」と尋ねられたが、即座に「もちろん」ということになった。現地のホテルで徹夜で練習をして英語でスピーチされた。

「研究開発予算の獲得のためには、審議会では反

対だけではない。で、くださる。と懇願したが、「不可能なことが分かっていても、の国が行うのは駄目だ」と審議会でも発言され往生した。

ちよとそこのとき、カン又で開催され

たある国際会議に奥田敬和郵政大臣が出席することになった。

大臣に、「世界に向かっ

て自動翻訳電話の共同開発

を呼びかけてはどうかか」

と提案したところ、「そんなものが本当にできるのか？」と尋ねられたが、即座に「もちろん」ということになった。現地のホテルで徹夜で練習をして英語でスピーチされた。

「研究開発予算の獲得のためには、審議会では反

# ATR 自動翻訳電話の開発拠点

## 幻の電気通信振興機構

「電電公社の膨大な資産は、加入者の拠出した加入料金と、使用料から成り立っている。本来、電話加入者に帰属するものである。従って、公社が民営化した場合、国がすべての株式を保有するといことはおかしい。少なくとも株式の売却益は、電話加入者の利益のために使われるべきである」。

茂生局長であった。羽田孜衆議院議員を委員長とする勉強会が設立された。電気通信振興機構の構想が打ち出された。日本電信電話の株式の半分を国が保有し、その売却益も配当される。少なくとも株式の売却益は、電話加入者の利益のために使われるべきである。新規電気

一般計で面倒を見なければならぬのに電電公社だけを自動翻訳電話を、電気通信で独り占めすることをできないのでは、ないか」と、産業界も必ずしも賛成に回らなかった。結局、この要求は世の中

この株式の売却益をそれを使い、人類の20世紀の遺産にしたいという夢を持っていた。

機械翻訳の研究を行っていた京大の長尾真教授(後京大総長)にお聞きすると、「完全なものではできないが、繰り返す。あるいは違う言葉で言い直してみるなど、ためだから、審議会では反

### 予算要求の重要項目

民営化法案を担当していた濱田弘二調査官は、毎日、毎日声を大にしてこのことを主張しつづけた。省内外では誰からも相手にされなかったが、その声を取り上げたのが、次官になった小山局長を引き継いだ澤田

通信事業者の育成など、さまざまな電気通信振興のための施策を行うというもの余曲折のあと、通産省と共催の「基礎技術促進センター」で、政府保有株式の配当益の多く一部を電気通信の振興と産業技術の振興のために使うことができるよ

「研究開発予算の獲得のためには、審議会では反対だけではない。で、くださる。と懇願したが、「不可能なことが分かっていても、の国が行うのは駄目だ」と審議会でも発言され往生した。

ちよとそこのとき、カン又で開催され

たある国際会議に奥田敬和郵政大臣が出席することになった。

大臣に、「世界に向かっ

て自動翻訳電話の共同開発

を呼びかけてはどうかか」

と提案したところ、「そんなものが本当にできるのか？」と尋ねられたが、即座に「もちろん」ということになった。現地のホテルで徹夜で練習をして英語でスピーチされた。

「研究開発予算の獲得のためには、審議会では反

2011年(平成23年)12月8日(木曜日)

# デジタル通信革命の舞台裏

## 内海善雄 前NTT事務総局長

—11—

私は、郵政省でNTTの経営形態問題を直接担当することはなかった。しかし日本の電気通信の基本的なフレームワークづくりである経営形態問題を選挙して通ることはできなかった。

事業者にアリのような新規参入者がどうやって公正な競争ができるのかという問題は誰でも考えることである。その解答のひとつがNTTの分離・分割である。作るべきだと考えた。

国鉄改革の添え物

電電の民営分割が提案されたのは、1982年の第二次臨時行政調査会(土光臨調)である。しかし「中

### NTT分割論議は国際的な視点で

別のアプローチもあろう。それは、国の規制で競争条件を公平にさせることである。ゴルフのハンデと同じ考え方である。私は、自由化法案の策定に当たって後者の考え方をとり、NTTと新規参入者は、同じ事業法で規律すべきではないと考えた。NTTのサービスを細かく規定する主張は、臨調答申の存在

## 二本立て法体系で公平競争

別のアプローチもあろう。それは、国の規制で競争条件を公平にさせることである。ゴルフのハンデと同じ考え方である。私は、自由化法案の策定に当たって後者の考え方をとり、NTTと新規参入者は、同じ事業法で規律すべきではないと考えた。NTTのサービスを細かく規定する主張は、臨調答申の存在

競争原理を導入するに当たって、巨人である既存のNTTのサービスを細かく規定する主張は、臨調答申の存在

競争原理を導入するに当たって、巨人である既存のNTTのサービスを細かく規定する主張は、臨調答申の存在



99年7月1日、NTT分割で発足したNTTコミュニケーションズII中央は初代社長の鈴木正誠氏

なつた。分割によって公平競争条件の確保という分割の大きな目的は、個別の規制で確保できおり、すでに新規参入事業者が大きい問題となった。あまりにも大きな意見の相違により、結論を見ることができず、見直しは、さらに5年後まで引き伸ばされた。

また、NTT経営形態論議が行われた。状況は自由化の参入をやりやすくする時とは一変している。すなわち、米政府も公正競争条件確立を厳しく要求している。競争は国内ではなく、国際市場で、いかに日本企業が事業を展開するか、また、疲弊した通信機器メーカーをいかに立ち直らせるのかという観点で優先されるべきである。

たことが、実現したのである。分割問題は、96年に妥協大型コンピュータを開発した産物である持ち株会社方式による分割案で合意を制覇できたのは、電電公社と納入通信機メーカーの99年、今日のNTTグループ研究開発体制であった事実も、ぜひ思い起こすべきことである。(つづく)

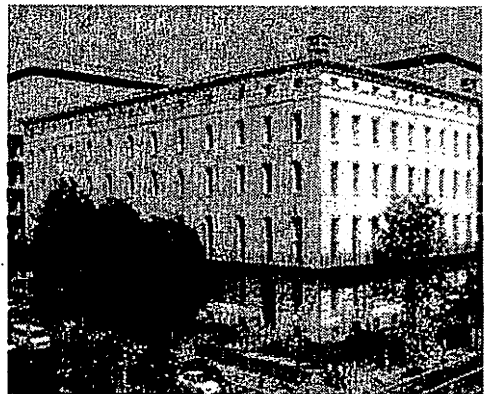
長や富田次長の理解を得られなかった。「とにかくNTTと新規参入者が同じ条件の下で競争することになれば、NTTは納得しない」というのであった。社会の神経である電気通信の民営化への疑問、技術開発体制に対する疑問など、90年、この見直しは、もつぱらNTTの分割議論と

化そのものについての疑問点や、反対意見に対して「とにかく民営化して、5年後に見直ししよう」という趣旨の規定であったの

# デジタル通信革命の舞台裏

## 内海善雄 前IITU事務総局長

—12—



米国と日本の間には、織り、電電公社は、購入した米がどうしても譲れないもの国際標準維、自動車、電気通信、半くもない機器を米国から購入のとして、通信機器の「フ」に從うのが導体などのたくさんさんの経済入するために、仕様書を英「ロトコル」があった。IITU世界の常識摩擦があった。近年、わが国の経済力が低下して、これらの経済摩擦も過去の出来事になったように見える。しかし、ごく最近起きたトヨタ車の欠陥ブレーキ問題は、明らかにこれら経済摩擦と同質の事柄である。使用もされない米国製の電話機



# プロトコルが問題!! 完全自由化 一斉合奏

毎年、約束実行の点検  
 「米国から購入できるものは雑巾バケツくらいしかない」と電電公社の秋草総裁が発言して物議をかもし出したのが、1979年ごろから問題になった電電公社の電気通信機器の調達であった。  
 強力な米国の圧力による。多くの案件の中に、日米政府と直接交渉をし、自由化しろ」との一斉合奏「プロトコル」とは、通信のやり方に関する技術的な決裂のすま帰国したが、見ると、それらは国際社会

「米国の倉庫に山積みになつていて」といふ噂も流れた。さらに、公社が民営化した後も、毎年約束を実行しているかどうか、米国の点検を受けたのである。1984年の電気通信の自由化の際には、私は数年間米国政府と直接交渉をし、自由化しろ」との一斉合奏「プロトコル」とは、通信のやり方に関する技術的な決裂のすま帰国したが、見ると、それらは国際社会

「ロトコル」は、一体なんのことで「すか」と教えてくると言ってきたのである。電電通信技術者の中で、この「プロトコル」とは、通信のやり方に関する技術的な決裂のすま帰国したが、見ると、それらは国際社会

「ロトコル」は、一体なんのことで「すか」と教えてくると言ってきたのである。電電通信技術者の中で、この「プロトコル」とは、通信のやり方に関する技術的な決裂のすま帰国したが、見ると、それらは国際社会

「ロトコル」は、一体なんのことで「すか」と教えてくると言ってきたのである。電電通信技術者の中で、この「プロトコル」とは、通信のやり方に関する技術的な決裂のすま帰国したが、見ると、それらは国際社会

売でできるよう 承知をしない。  
 全て自由にする 承知をしない。  
 しかし、あるコーヒー・ですが、外交用語では、儀典

約束ごと(技術標準)をき 波の割り当ても強要され地 域によって、異なる規格の 携帯電話サー ビスが開始さ れた。

これら米国 正しい事も通用せず

自分の世界では、絶対に正しいことでも、国際社会というレベルになれば、通用しないことが多い。それは、後にIITUの事務総局長となつて8年間、世界中の人を相手にして嫌というほど実感したことであつた。

(つづ)

# デジタル通信革命の舞台裏

## 内海善雄 前NTT事務総局長

—13

これまで、電気通信自由化前後の主な出来事を断片的に述べてきたが、このあたりで自由化全体を総括してみよう。

関係者の議論不十分

まず第一に、国営独占の体制から民営競争への革命的な政策転換のイニシアチブは、土光敏夫臨調会長の答申であったことである。

郵政省の中でも、民営競争の考え方があったことは、「通信行政の展望」でも明らかである。しかし、それは、単にほのかな希望とこの程度のもので、公にするべきものではなかった。たものであった。「電政」(1981年)でも、やうと「市場原理の導入」と「経営形態の検討」と

### 通信自由化の総括

## はじめに民営競争ありき

「電政」答申から2年後の臨調答申で初めて革命的な電電公社の民営分割の

第二に、臨調答申が虫食いにされ、電電公社のいいとこ取りになったことであった。自由化後20年を経た今日でも、NTTの分割の在り方、競争事業主権とか、外資規制とかい



臨調会長時代の土光敏夫氏

なかつた。しかも、自者とのネットワーク接続の

第四に、技術開発政策である。当時、民営化によって技術開発力が削がれるのが心配する者があつたといえるのではなかつたか。

公社の民営化を答申したの

由化答申は、国鉄問題とは異なる、当事者を含めた激しい議論の結果でもなかつた。

在り方、独占の市場で得られる情報の不公平な扱いなど、公正競争問題が業界の最大関心事であり、また行政課題となつてきているのは、ここに由来する。

政策は、当然のこととしてではないかと危惧する者があつたといえるのではなかつた。しかし、郵政省の努力にもかかわらず、新しい開発体制作りを行うことは十分にはできなかった。

電気通信は、技術開発に極めて依存した分野であるが、あつたことは確かだ。日本が先例となつた10年後のEU内の自由化と単純に比較することはできない。

用意周到な検討のもとに自由化が行われたが、日本では、いわば棚ぼた的に進むのみであった。「電政」(1981年)でも、やうと「市場原理の導入」と「経営形態の検討」と

そのため、答申の分離分割部分は、いとも簡単に無視され、電電の意思通りの民営化が行われ、市場を一社で独占する怪物が出現したのである。いわば競争政策も競争ルールも不在のまま

第三に、情報通信産業の振興に関する戦略が不十分であつたことである。通信界の通信市場が自由化された。

その結果、十数年後に世界の通信市場が自由化された。

その「ファミリー」企業を中心とした技術開発体制が崩壊した。

第五に、政治、行政のレベルでは、いわゆるVAN戦争、すなわち官庁間の縄張り争いが最大問題となり、多くのエネルギーが多数派工作に費やされた。世の中の関心は、そちらに集中し、肝心の前記の各種の問題がおろそかになった。このように、通信自由化は、通信サービスの向上や通信産業の振興を押し進めるにはどうするべきかという総合的な通信政策の一環というよりは、むしろ「はじめに民営競争ありき」であつたといえるのではなかつたか。

(つづく)

# デジタル通信革命の舞台裏

## 内海善雄 前ITU事務総局長

—14—

1994年に京都で開催されたITU京都全権委員会議は、いろいろな意味で日本が元気だった時代を象徴する出来事だった。会議は、4週間、1,200人が出席し、日本で開催された最大規模の国際会議であった。

今も関係者が羨める日本のホスピタリティが素晴らしかったことは当然であるが、ITUの歴史上、空前絶後の記録である、一度のナイト・セッションもなく議事進行を予定通り終了することができた。20年後の今でもITU関係者から「京都会議は素晴らしいかった」と褒められている。

そもそも日本が、この会

議を招聘したのは、1990年に開催された二ス全権委員会議において、ストヘ立候補したが、その選挙戦では会議の招聘を行っていない。日本にはそれだけの余裕がなくなっているのだ。

私は、会議の3年も前に選挙戦を有利にするため、京都会議の招聘をしたのであった。

国際選挙戦では、各代表者が喜び立候補

議を招聘したのは、1990年に開催された二ス全権委員会議において、ストヘ立候補したが、その選挙戦では会議の招聘を行っていない。日本にはそれだけの余裕がなくなっているのだ。

私は、会議の3年も前に選挙戦を有利にするため、京都会議の招聘をしたのであった。

国際選挙戦では、各代表者が喜び立候補

議を招聘したのは、1990年に開催された二ス全権委員会議において、ストヘ立候補したが、その選挙戦では会議の招聘を行っていない。日本にはそれだけの余裕がなくなっているのだ。

私は、会議の3年も前に選挙戦を有利にするため、京都会議の招聘をしたのであった。

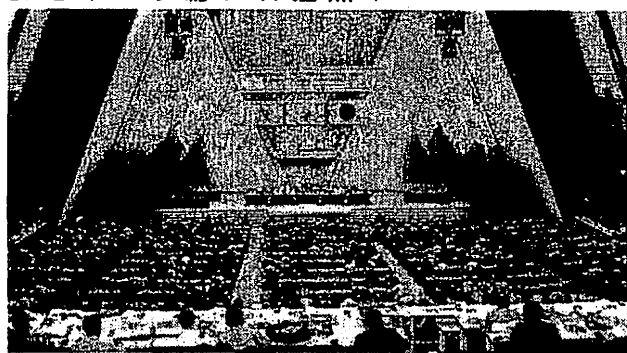
国際選挙戦では、各代表者が喜び立候補

# 情報化社会実現の足掛かり

## 国威を築き上げた京都全権委員会議

事が必要経費が膨大に膨らんでいく。策局長の言葉は、今も忘れなかつたことと比較して、必要な経費のこと。当時の日本の経済力は、4億円の負担など問題ではなかつたのだ。

「関係する以上、出席者が日本は繁栄の周到な準備で会場、レセプション、夫人プログラム、エキスカージョンとす



運営が絶賛された94年のITU京都全権委員会議

べてが順調に、また、盛大に行われた。一例を挙げれば、会場の京都国際会館でも今も語り草になっている日本政府主催のレセプションの余興である。

祇園の芸妓絡上げの「手打ち」であった。京都へ出張した際、お茶屋「二力」の女将に相談したところ、提案されたものである。日本人の我々もあまり見ることのできないものを外国の参加者のために、予算の心配をすることなくお願いすることができたのだ。

3年も準備期間があったので、主な国際会議にはす

て、顔を売ることができた。また、外国の顔役が、世界中心で、都市内料金とほぼ同じ料金で電話がかけられる情報化社会を実現するきっかけになったのである。

京都会議の成功のおかげで、私はITUの事務総局長に選出されることにもな

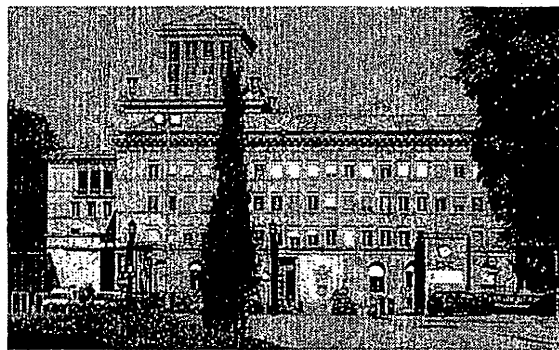
(つづく)

2011年(平成23年)12月15日(木曜日)

# デジタル通信革命の舞台裏

## 内海善雄 前ITTI事務総局長

—15—



ジュネーブにあるGATT(現WTO)の本部

ではない。しかし他の案件に資金供与を仰いでいる開発途上国は世銀の電気通信に関する政策指導に従わざるを得なかったのである。ところが、世銀がコンサルタントを雇って途上国を指導する電気通信自由化の内容が、WTOで合意されたものとは微妙に異なっていた。一例を挙げれば、独立規制委員会の設立である。WTOの合意では「規制機関は、サービスマニヤから分離し、事業体として従属してはならない」と規定した。

無理な自由化強いる

アフリカ諸国は、国頭の大監督官のように無理な自由化を強いられた。その結果、市場は欧米資本に席巻される。WTOの合意では「規制機関は、サービスマニヤから分離し、事業体として従属してはならない」と規定した。国では、より地方までサービスマニヤが行き届くよう、世銀の指導には従わず、ユニバーサル・ファンドの創設や、漸進的な競争の導入など、国情に応じた政策がとられた。

# 好機を生かせなかった日本企業

その後、全加盟国の合意を取り付けるという先進国主導の交渉であった。



その後、全加盟国の合意を取り付けるという先進国主導の交渉であった。

その後の、全加盟国の合意を取り付けるという先進国主導の交渉であった。

その後の、全加盟国の合意を取り付けるという先進国主導の交渉であった。

その後の、全加盟国の合意を取り付けるという先進国主導の交渉であった。

その後の、全加盟国の合意を取り付けるという先進国主導の交渉であった。

その後の、全加盟国の合意を取り付けるという先進国主導の交渉であった。

「電話の普及率が3%にも満たないこの国で、携帯電話会社4社も競争している。だから、首都にしかサービスできない。2社でも多すぎることは分かっているが、世銀に指導されているから仕方ない」。

あるアフリカの国の通信大臣がITTI事務総局長の私にこう聞いた。おまけにこの国の独立規制委員会

は、電気通信だけではなく、交通や電力も所掌している。通信の専門家は誰もいない。

自由化の波、世界へ

日本の通信の自由化を追って12年後(1998年)、EU諸国が一斉に自由化を行った。そして、自由化の波は、またたく間に世界各

国に広がったが、それは、WTO(世界貿易機関)の「基本電気通信交渉」という形で行われた。

WTOでは、自由貿易の推進が世界の繁栄の基礎である。まず、米、EU、カナダ、日本の4極で合意した内容が、他の主要16カ国に交渉がなされている。私

知らざれば合意が促される。力がなく、あ

まり反論が出なかった。

数々の主導によって、世間の中の通信を自由化させるという意図を取り付けることに容易に成功したのである。

電話が普及していない開発途上国には最良の政策と見られるが、実は世銀は考えられない自由化を強制執行したのは、実は世銀が望まれた。

驚くなかれ、後に米政府が日本に対してWTO合

(つづく)

# デジタル通信革命の舞台裏

内海善雄 前ITU事務総局長

16

日本で開発された技術が世界標準となり、日本製品が世界中で売ればこんなに良いことはない。この絵に描いたような成功物語が、30年前のファクスのG3規格であった。

1980年に決定されたG3規格の交渉は、ちょうどジュネーブ代表部勤務の時代に行われた。私は、もっぱら日本代表団のお世話をした。国内で調整をつけられなかったNTTとKDDが、ITUの場で調整することにより統一の国際規格を成立させ、その規格にのっとった日本製のファクスが世界を席巻したのである。

その後、標準化活動を語る人は誰も、この成功物語を無意識のうちに考えているようである。しかし、世の中は、そんな生易しいものではない。この絵にはなかつた。同意がしやすい規格NHKの「ハイビジョン」は、日本が世界に誇るべき素晴らしい技術であつた。関係者の多大な努力のおかげで、欧米の放送業界



ITU事務総局長時代、標準化で議論する筆者

## 日本企業の発想の転換が必要に 技術開発戦略

### 戦略性求められる 標準化活動

は日本提案に同意したのである。しかし、先行してアクスのように技術開発の先行利益を100%生かすことにはならなかつた。

この2大国際標準化事業を垣間見た後、第3世代携帯電話(3G)の標準化に際しては、標準化活動の裏舞台

た。ヨーロッパや、ソ連と異なる日本企業の独走を許さないという国家戦略のものと、欧米政府に拒否され、ハイビジョンの標準化は頓挫する。もちろん、このときの標準化努力が、現在のデジタ

ル「HDTV」として結実しているの

で、決して無駄なことでは

ない。このときの標準化活動

は、合意されたのであつた。

ク社の利益サポート

米政府の私に対する圧力は、当然、アルコム社の一場面であつた。

機器と機器がつながり、お互いに通信ができるようになるという教科書的な標準化は、接続技術の進歩によりあまり重要でなくなつた。今は、誰と誰が組んでどんな世界商品をつくり出すかというのが重要な標準化活動となつた。日本企業間の技術開発戦略には、根本的な発想の転換が必要である。

(つづく)



# デジタル通信革命の舞台裏

内海善雄 前ITU事務総局長

—17—

激動のデジタル革命30年間を振り返ってみて、人間の未来を予測する能力がいかに限られているか思い知らされる。

携帯電話が、これほどまでに普及するとは誰も考えなかった。NTTが分割されてNTTドコモが設立されたとき、ドコモへ移籍する希望者が少なく困ったという。今は、NTTグループの稼ぎ頭となり、グループを支えている。

NTTがパケット通信網サービスを開始したとき、誰が今のインターネットの発展を予想したのだろうか。そして、アマゾンや楽天がインターネットを活用して

流通革命を起こすことを誰が予想したのだろうか。また、京都全権委員会で創立した「政策フォーラム」が世界の電話料金を革命的に安くさせるには、誰が想像したのだろうか。

もちろん、未来が見える人があるからこそ現在の発展があるのだから、多くの者は予想をつけること

## エンジンフル回転、戦う意思を

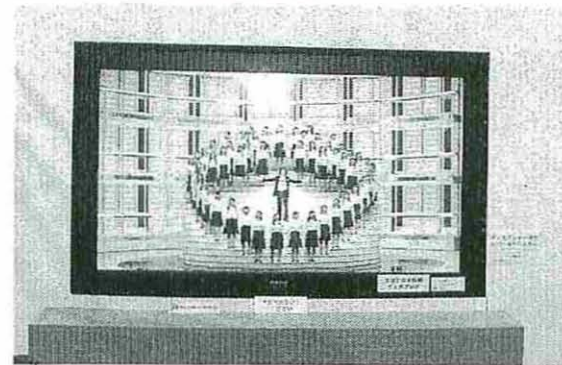
### 企業への教訓

企業に成長し、端、全てが変わる。た。ゼロから陸に必要な一定のスピードを出発した楽天が必要である。この10年間に世界は変わった。それは国内経済、あつてもせいぜい地域経済の範囲で人間の

企業に成長し、端、全てが変わる。た。ゼロから陸に必要な一定のスピードを出発した楽天が必要である。この10年間に世界は変わった。それは国内経済、あつてもせいぜい地域経済の範囲で人間の

経済活動が行われていた世界が地球規模のグローバル経済になったことである。通信の自由化は、電電公ウがなければ、グローバル市場では飛べない。そして、何よりも、エンジンをフル回転して飛ぶ意思がなければ、

ある地上を滑走して、二次元の空間に突入し、飛行する。地上の前後左右だけの世界から、上下もある空中に突入した途



デジタル革命は果てしなく続く。現行ハイビジョンの次世代版「スーパーハイビジョン」が2020年の試験放送目指しNHKで開発中だ

て、皆が燃えれば、飛行は不可能だ。同じように、国内経済の世界からスピリットを持ち、夢に燃えたい。日本人に技術がある

が起きたので、翼がなければ三次元の世界を飛行できないのと同じように、英語を自由に操れない。一定のスピードを出てきたデジタル革命の舞台裏は、極めて限られた場面とそのまた一部分に過ぎない。しかし、多くの関係者に感じるべきなのは、人生幸福の極みである。

(おわり)